

干潟と保全の取り組み (No. 37)

干潟の名称	西広干潟		
海域(府県)名*1	紀伊水道(和歌山県)	エリア名*1	湯浅湾
干潟の面積	10ha 出典:【わかやま海域環境研究機構 HP】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	広川町の沿岸に広がる砂質の干潟で、遠浅で海水浴場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	海岸とその周辺の一斉清掃		
実施団体名	広川町 企画政策課		
連絡先住所	〒643-0071 和歌山県有田郡広川町大字広 1500 番地		
代表者名		Email	
団体会員数	260名	HP	
(活動の概要)	老人クラブ、婦人会、観光協会、商工会、役場職員互助会による海岸とその周辺の一斉清掃		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他( )		
(最近の活動実績)	<p>・H30年 6月29日</p> <p>(活動内容) 海開きを前に清掃活動を実施</p>		
	 <p>西広海岸 (引用: 広川町 HP より)</p>		

関連する生物種等	は希少種
<p>○野鳥:</p> <p>○干潟の生き物: ナミノコガイ、イカリヒモナマコ、キンセンガニ、アカエイ、クサフグ、</p> <p>○海藻(海草):</p> <p>○植物: ハマボウ</p>	
希少種の特徴等	
<p>特に目立った希少種は認められていないが、この地域に一定面積のある前浜干潟があること自体が特筆すべきである。</p>	

\*1: 「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

干潟と保全の取り組み (No.38)

干潟の名称	有田川河口干潟		
海域(府県)名*1	紀伊水道(和歌山県)	エリア名*1	有田川河口(湯浅湾)
干潟の面積	1.5 ha 出典:【わかやま海域環境研究機構 HP】		
干潟のタイプ	前浜干潟 (河口干潟) 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	有田川河口の感潮域に現れる砂泥質の干潟。上流のダム建築や山林の荒廃で危機にあるが、昔は、「青ノリ」の産地として知られていた。また、特筆すべき生物が見られる。環境省の干潟500選にも選ばれている。		
保全の取り組み名称	親子参加による清掃活動と絵本の読み聞かせ		
実施団体名	もっとの会 おそうじクラブ		
連絡先住所	〒649-0316 有田市宮崎町 414-6		
代表者名	中村紀子	Email	n.noriko-1970@fc5.so-net.ne.jp
団体会員数	約40名	HP	
(活動の概要)	2007年3月に発足。毎月1回、1時間程度の清掃活動を実施。清掃後は、子どもたちの心の栄養になるよう絵本の読み聞かせを実施。また、自然の中での活動を通じ、想像力や自主性を伸ばせるよう、自然観察会、工作、お母さんの手作りクッキング等を行い、親子3世代が楽しみながら活動中。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 (干潟清掃) 研修会・学習会 他との協同連携 その他( )		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年5月27日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ「ちがうねん」「はなのすきなうし」 手作りクッキング「みかん丸ごとゼリー」</li> <li>平成30年4月29日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ「どこにいったん」「バーバパパのはこぶね」 手作りクッキング「パンナコッタ」</li> <li>平成30年3月18日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ「ハナミズキのみち」「かあさんのこもりうた」 手作りクッキング「みかん丸ごとゼリー」</li> <li>平成30年2月25日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ 手作りクッキング「三色雑寿司」</li> </ul>		



\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

<p>関連する生物種等</p> <p>は希少種</p> <p>○野鳥: アオサギ、ゴイサギ、ミサゴ、トビ、チュウサギ</p> <p>○干潟の生き物: イシマキガイ、ミヤコドリ、イボウミニナ、コゲツノブエ、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、アミメノコギリガザミ、トゲノコギリガザミ、アシハラガニ、ハサミシャコエビ、テッポウエビ、ニホンウナギ、アカメ、サツキマス、アユ、クロダイ、キチヌ、チワラスボ、トビハゼ、シロウオ、タビラクチ、ヒモハゼ、チクゼンハゼ、イソミミズハゼ、ミナミヒメミズハゼ、イドミミズハゼ、ヒナハゼ、アカオビシマハゼ</p> <p>○海藻(海草): アマモ、コアマモ</p> <p>○植物: アシ、オギ</p>
<p>希少種の特徴等</p> <p>当干潟は有田川河口に近く、南側に広がる干潟である。シオマネキ類や巻き貝類の生息で知られるが、魚類にもアカメやチワラスボなどの希少種が多く認められる。芦原があるため、これらを利用した生物が生息しているが、近年の開発等による影響で芦原の面積は減少傾向にある。</p>
<p>写真: 有田川河口干潟</p>

干潟と保全の取り組み (No. 39)

干潟の名称	和歌浦干潟 (和歌川河口干潟)		
海域(府県)名*1	紀伊水道 (和歌山県)	エリア名*1	和歌浦湾
干潟の面積	3.5 ha 出典:【わかやま海域環境研究機構 HP】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他 ( )		
干潟の特徴	和歌川(旧紀の川)の河口に広がる干潟に亀の川や紀三井寺川等の小河川の河口干潟も加わり、さらに片男波という砂嘴により外海からの波浪を避けているため、非常に穏やかで遠浅な砂泥質の干潟が広がる。		
保全の取り組み名称	磯根漁場再生事業		
実施団体名	和歌山市		
連絡先住所	〒640-8511 和歌山県和歌山市七番丁23		
代表者名	尾花 正啓	Email	
団体会員数	名	HP	
(活動の概要)	和歌浦地先の片男波干潟地帯にアサリ食害防止ネットを設置し、アサリ資源の回復を図る。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他 ( )		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年9月7日 耕うん作業後にアサリ食害防除ネットを設置。</li> </ul>		
			

関連する生物種等	は希少種
<p>○野鳥：アオサギ、ゴイサギ、ミサゴ、ヘラサギ</p> <p>○干潟の生き物：ワカウラツボ、ハマグリ、ミヤコドリ、ハボウキガイ、タイラギ、ウミナ、イボウミナ、カワアイ、カニノテムシロガイ、キセワタ、フレリトゲアメフラシ、シオマネギ、ハクセンシオマネギ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、イシガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、ハサミシヤコエビ、テッポウエビ、ニホンウナギ、トビハゼ、ヒモハゼ、チクゼンハゼ、エドハゼ、イソミミズハゼ、ミナミヒメミミズハゼ、アカオビシマハゼ等</p> <p>○海藻(海草)：アマモ、コアマモ</p> <p>○植物：アシ</p>	
希少種の特徴等	
<p>関西圏最大の干潟を利用して多くの生物が生息している。特に、大阪湾などでは絶滅に瀕している小型生物(魚類、甲殻類等)がみられ、兵庫県の播磨等の瀬戸内とのつながり、種の連続性(遺伝的な要因も含む)を示す生物がみられる。また、これら豊かな生物相を利用する渡り鳥の休息地ともなる。この干潟は歴史的にも古く万葉の時代から和歌にも詠まれ、生物の和名にも「わかうら」や「わか」の付くものもある。</p> <p>一方で都市化によって芦原の消失や環境の変化によるアサリの減少が認められ、それらを回復させる取組が地元の漁協やNPO、行政、小学校などの連携によって進められている。</p>	

\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

干潟と保全の取り組み (No. 40)

干潟の名称	和歌川河口干潟		
海域(府県)名*1	紀伊水道(和歌山県)	エリア名*1	和歌山県和歌山市
干潟の面積	35ha 出典:【和歌山県内の主な干潟(わかやま海域環境研究機構)】		
干潟のタイプ	前浜干潟(河口干潟) 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂泥または泥の干潟</li> <li>・潮間帯の上部が堤防となっており、塩性湿地はないが、観海閣<small>かんかいかく</small>の北側で人工植栽されたヨシ原が若干見られる。</li> <li>・干潟は片男波(砂嘴)と護岸で外海と隔てられており、亀ノ川河口付近で海域と接する。</li> </ul>		
保全の取り組み名称	水産多面的機能発揮対策事業		
実施団体名	和歌浦活性化活動組織		
連絡先住所	〒641-0023 和歌山県和歌山市新和歌浦1-1		
代表者名	藪 豊	Email	
団体会員数	約40名	HP	
(活動の概要)	干潟における二枚貝を対象とした保全活動 地域の小学生を対象とした学習会の開催		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他( )		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年5月24日</li> </ul> (活動内容) 二枚貝(アサリ等)の食害生物であるツメタガイの駆除状況		
	 		
	平成29年10月11日		
(活動内容)	和歌山市立和歌浦小学校3年生を対象とした学習会の開催状況		
			

\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等	は希少種
<ul style="list-style-type: none"> <li>○野鳥:</li> <li>○干潟の生き物: 二枚貝、ワカウラツボ</li> <li>○海藻(海草):</li> <li>○植物:</li> </ul>	
希少種の特徴等	
<p>ワカウラツボ(環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU))</p> <p>分類: ニナ目(中足腹目) カワグチツボ科</p> <p>特徴等: 最初の発見地「和歌浦」を和名に冠する本県を代表する汽水産貝類。1954年に和歌浦産として記載されたが、長い間確認されなかった。しかし、熱心な研究者によって近年、同地において再確認された。</p> <p>貝殻は小形、紡錘形状、堅固。殻皮は小豆色や橙褐色、時には黄白色、黒褐色など変異がある。伊勢湾から瀬戸内海、有明海の干潟、内湾、河口域に生息する。</p> <p>生息条件は、内湾干潟、河口域の泥や砂泥に半ば埋まる岩、または堆積したゴミの下などに付着している。</p> <p>減少の原因は内湾干潟とそれに続く河口域の環境悪化(汚染)によるものである。</p>	
	